月　日 名前　　／100点

【小6】国語 文章問題　物語文 3

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

兄が高校生になって、部屋にギターがやって来た。夜になると、かべの向こうから、同じところで何度もつっかえる音が聞こえてくる。正直に言うと、少しうるさかった。

ある日、兄のいない間に、こっそり部屋に入ってギターにさわってみた。思ったよりずっと重い。げんをおさえると、指先にするどいいたみが走った。こんなものを、兄は毎日ひいているのか。

その夜、夕食のとき、ぼくは兄の左手を見た。指先が、かたく、白っぽくなっている。

「その指、どうしたの。」

「ああ、これ。ひいてるうちにかたくなるんだよ。はじめは血が出た。」

兄は、何でもないことのように言って、ご飯をかきこんだ。

ぼくは、はしを持ったまま、しばらく動けなかった。かべの向こうのつっかえる音は、うるさい音ではなかったのだ。あれは、いたみをこらえながら、同じところを何度もくり返している音だった。

それからぼくは、夜の音が気にならなくなった。むしろ、つっかえていたところが、ある晩、するりと通りぬけたとき、思わずかべの前で小さく手をたたいていた。

次の日の朝、兄に「きのう、あそこ、ひけてたね。」と言うと、兄はびっくりした顔をした。

「聞いてたのかよ。」

兄は、少しむっとした声で言った。けれど、その耳は、まっ赤になっていた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ぼくがギターのげんをおさえたとき、指先に何を感じましたか。本文から十字までで書きぬきましょう。

問二　「しばらく動けなかった」とありますが、このときのぼくの様子として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　ギターにさわったことが兄にばれないか、心配している。
イ　兄が食事中に話をしたので、あきれている。
ウ　兄が血が出るほどのいたみにたえて練習していたと知り、おどろいている。

問三　ぼくにとって、かべの向こうの音の聞こえ方は、どのように変わりましたか。四十五字までで書きましょう。

問四　「その耳は、まっ赤になっていた」から分かる兄の気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　夜おそくまで練習して、つかれている気持ち。
イ　聞かれていたことがはずかしいが、気づいてもらえて本当はうれしい気持ち。
ウ　弟にぬすみ聞きされて、本気でおこっている気持ち。